

大谷大学図書館所蔵

## 「西藏文献目録」

(Catalogue of Tibetan Works kept  
in Otani University Library)

小川 一 乗

大谷大学図書館の書庫の中で、雑然と山積みされたまま長い間放置されていたチベット文献が、この度ようやく調査整理され、その目録が、大谷大学図書館から「西藏文献目録」として出版された。本目録によって、文献の分量は約四千百本余(No. 10001~14104)にも及び、量的には、世界に誇り得るものであることが判明した。しかも内容的には、所謂、藏外文献(チベット大蔵經に所収されないチベット撰述の文献)といわれるものがその殆んどで、すでに周知されている北京版とナルタン版との二大チベット大蔵經を所蔵する大谷大学にあって、さらに新らたにチベット文献の一大コレクションの存在が公表されたことになる。ここに大谷大学が、チベット文献研究にとって、世界的に貴重な資料を保有する佛教文献研究センターであることの存在意義がいよいよ大きくなったといえよう。

さて、本目録の具体的な内容についてであるが、その概略は、すでに、本学の稲葉正就教授によって「大谷大学図書館所蔵の藏外チベット文献について」(「大谷学報」、第四八卷第三号)として、また本学の片野道雄氏によって「大谷大学所蔵の藏外

文献」(「日本西藏学会々報」、第一七号)として、それぞれ紹介されている。従ってここでは、本目録の完成によって明確になった内容の数量的な面を簡単に紹介するのみにとどめたい。そして蛇足ながら、本目録の編纂事業が完成したことをよろこぶ協力者の一員として、私的な経過報告を付記しておくことにする。

本目録の内容は四部から成っている。第一部「チベットにおける刊行物」(Tibetan Publication, No. 10001~11880)と、第二部「中国における刊行物」(Chinese Publication, No. 11881~12462)とのチベット撰述のものに関する二部と、第三部「インド撰述の経論」(A Collection of sūtras and śāstras, No. 12463~13175)と、それに第四部「ウメ体のもの」(A Collection of Mss. in Dbu med Script, No. 13176~14104)とある。

第一部の「チベットにおける刊行物」は、全書物(Complete works)と単行物(separate books)とに二分されている。その中、全書物は二四種一四二一本に及び、その内容は次の如くである。

- 1 Ston btsan sgam po (No. 10001~10005)
- 2 Tsoñ kha pa (No. 10006~10135)
- 3 Dar ma rin chen (No. 10136~10203)
- 4 Mikhas grub dge legs dpal bzang po (No. 10204~10262)

- 5 Dalai lama I (No. 10263~10276)
  - 6 Dalai lama II (No. 10277~10278)
  - 7 Dalai lama VII (No. 10279~10350)
  - 8 Paṅ chen lama I (No. 10351~10519)
  - 9 Paṅ chen lama II (No. 10520~10530)
  - 10 Paṅ chen lama III (No. 10531~10800)
  - 11 Paṅ chen lama IV (No. 10801~10888)
  - 12 Hjam dbyaṅs bshad paḥi rdo rje I (No. 10889~10890)
  - 13 Hjam dbyaṅs bshad paḥi rdo rje II (No. 10891~10921)
  - 14 Ste luṅ bshad paḥi rdo rje (No. 10922~11018)
  - 15 Lcaṅ skya rol paḥi rdo rje (No. 11019~11029)
  - 16 Kloni rdol bla ma ṅag dbaṅ blo bzaiṅ (No. 11030~11044)
  - 17 Dbyaṅs can dgaṅ baḥi blo gros (No. 11045~11069)
  - 18 Sum pa mkhan po ye śes dpal ḥbyor (No. 11070~11115)
  - 19 Chos kyi rgyal po blo bzaiṅ bstan ḥdsin rgyal mtshan dpal bzaiṅ po (No. 11116~11163)
  - 20 Blo bzaiṅ ye śes bstan pa rab rgyas dpal bzaiṅ po (No. 11164~11235)
  - 21 Rta tshag pa ye śes blo bzaiṅ bstan paḥi ngon po (No. 11236~11258)
  - 22 Dbyaṅs can grub paḥi rdo rje (No. 11259~11268)
  - 23 Ye śes rgyal mtshan (No. 11269~11404)
  - 24 Gcog tshogs pa (No. 11405~11421)
- 単行物は、佛教関係のもの三四四本(No. 11422~11765)で、  
 佛教関係以外のもの(伝記、歴史、文法、その他)一一五本  
 (No. 11766~11880)である。
- 第二部の「中国における刊行物」も、第一部と同様に大別を  
 れ、その中、全書物は九種三四九本であり、その内容は次の如  
 くである。
- 1 Sroṅ btsan sgam po (No. 11881)
  - 2 Paṅ chen lama II (No. 11882~11899)
  - 3 Lcaṅ skya I (No. 11900~11975)
  - 4 Lcaṅ skya rol paḥi rdo rje (No. 11976)
  - 5 Blo bzaiṅ bstan paḥi rgyal mtshan dpal bzaiṅ po (No. 11977~12011)
  - 6 Blo bzaiṅ tshul khrims (No. 12012~12174)
  - 7 Blo bzaiṅ ḥphrin las (No. 12175~12202)
  - 8 Bkaḥ ḥgyur pa er te ni mer ken cho rje (No. 12203~12228)
  - 9 Dgon luṅ mkhan po bskaḥ bzaiṅ lha dbaṅ (No. 12229)
- 単行物は、佛教関係のもの一九三本(No. 12230~12422)で、  
 佛教関係以外のもの(伝記、歴史、文法、その他)四〇本(No. 12423~12462)である。
- 以上の二部(チベット撰述に関するもの)については、既刊

の諸目録〔西藏撰述佛典目録・藏外東北目録〕、「東京大学所蔵チベット文献目録」(Catalogue of Toyo Bunko Collection of Tibetan Works on History)とも参照され、それらのナンバーが註記されている。

第三部の「インド撰述のもの」は、チベットにおける刊行物三八八本(No. 12463~12850)と、中国における刊行物三二五本(No. 12851~13175)である。既刊のチベット大蔵経目録〔西藏大蔵経総目録・デルゲ版東北目録〕、「西藏大蔵経総目録・北京版大谷目録」等のナンバー、及び漢訳〔大正新修大蔵経〕のナンバーも、可能な限り註記されている。

第四部の「ウメ体のもの」は九二九本である。

本目録の編纂事業が本格的に開始される数年前に、稲葉教授の要請を受けて、私と当時大学院生であった栖川隆道氏とが協力者となり、これらチベット文献の調査整理に着手することになった。われわれが当初に眼にしたチベット文献は、その殆んどが古新聞によって一束ごとに束ねられて、書庫の一角に山積されてあった。一瞥したときは、それほど分量とも思えず、大して困難な仕事ではないとの印象を持った。しかし、いざ仕事に着手して、古新聞の束を幾つか開いて見たとき、その印象は吹き消されてしまっていた。というのは、それらの一束一束が必ずしも一つの整然とした所謂一函でなく、諸本を寄せ集めて一束にしてあるものであったり、バラバラな諸本が混然と束ねられているものであったり、それに加えて、判読困難なウメ

体(草書)のもの、印刷の不鮮明なもの、表題の部分が欠けているもの、等々が多くある、といった具合で、実のところ暗然とした気持ちにならざるを得なかった。ともあれ、可能な限り整理するというところで仕事が始められた。

私は、Dar ma rin chen の宝性論釈(本目録 No. 10148)や、Tson kha pa の入中論釈(本目録 No. 10117)を重要な参考書としている自分自身の研究の上から、特に宝性論釈の方は東洋文庫所蔵のものを書写したという苦勞の思い出や、入中論釈の方は校正に充分な信頼のおけない北京版しか見ていないという事情も絡んで、自然と全書物の方に注意が向けられた。

全書物は各束がきちんとした一函になっている場合が殆んどであるので、古新聞の一端を破って中を覗いてみては、全書物と推量される束ばかりを取り出して逐次調査整理をするといった身勝手な結果になってしまった。自分の研究に関係のある一函を手中にしたときは、何とも形容しがたい感慨を持ったのを憶えている。

調査整理がすすみ、一応の終りが近づいた段階で、これらのチベット文献の目録作成ということが、図書館の事業として具体化した。そこで、この目録編纂事業のために、それに専門的に従事する図書館嘱託として片野道雄氏が迎えられ、事業が強力に遂行されることになった。これ以後、実務的な仕事は片野氏を中心に押し進められ、ここに本目録の完成を見るに至ったのである。その間の片野氏の苦勞は、協力者の一人として時には相談を受けた私の知るところであるが、それとて同氏の苦勞

の一端にしかすぎないのであろう。例えば、ウメ体（草書）のものや不鮮な印刷で判読の困難なもの、また表題の部分の欠如しているもの等々の調査整理に思いあまって、そのために、東洋文庫に依頼してチベット人研究員 Bosod nams sgya mtsho, Mikhas btsum bzam po, Thub bstan zla grags の諸師の協力を得たときのことなどが思い出される。

現在、大谷大学図書館の書庫に入ると、かつては雑然と山積みされ埃にまみれていたチベット文献が、整然と配置され、真新しい箱の中に納められている。感無量というほかはない。願わくは、これらの文献が、このまま書庫の中で惰眠をむさばることなく、存分に活用され研究されることこそ、本目録の真の完成というべきであらう。これらの文献の研究者の続出せんことを願うのみである。

終りに、本目録は、諸本の内容がすべて明確にされた上での

目録ではなく、あくまでも一応の目録であって幾多の難点を残したままである。例えば、ウメ体（草書）の文献を、第四部として一括してしまい、内容について何らの分類をしていない点などがその一例といえよう。また中には、表題が解読されていないものも残存しているし、本目録にはどうしても揭示するに至らなかった幾つかの端本も少しく残ったままである。従って、本目録には多分に表題の誤写（あくまでも原本に忠実にと心掛けたのであるが）、整理上の不備等が残存していることであらうが、それらは、いずれ作成されなければならない表題名や作者名等の索引の完成をまって改正されていくことであらう。ちなみに目下、稲葉教授によって、表題の和訳が遂行整理されているが、それによっても、本目録の不備や誤謬が補填されるであらうことが待たれる。

（昭和四十八年三月、大谷大学図書館刊、B五版、非売品）